大尾神社

大尾神社は宇佐神宮の東側にある大尾山に建っています。この神社は、8 世紀に起こった皇位継承争いの際に、重要な神託を受けた摂社です。

749 年、大仏を建設中だった東大寺を参拝するため、八幡神は宇佐から奈良（当時の都）に移されました。帰り道の途中、八幡神を宇佐神宮に戻せるようになる前に、八幡神からのご神託があり、小椋山の本殿がお清めされている間、八幡神はしばらく大尾山に祀られるべきであると宣言されました。そのため、765 年に大尾神社が建てられました。歴史学者たちは、八幡神が本拠地へ戻るのが遅くなったのは、宇佐神宮の影響力の高まりを警戒した奈良の政界の権力者たちの策略によるものだったと考えています。

八幡神は 15 年間、大尾神社に留まりました。その間に、権力者であった僧侶の道鏡（700？–772）が次の天皇に指名されようと企てました。ある説によれば、道鏡の支持者は、もし道鏡が天皇の座に就けば国全体が平和になると八幡神からの神託が予言した、と主張したといいます。この託宣を検証するために、称徳天皇（718–770）は、769 年に和気清麻呂（733–799）という廷臣を宇佐に派遣しました。和気清麻呂が大尾神社で受け取った神託は、皇位は皇室の血を引く人にのみ継がれるべきであると宣言し、それにより道鏡が天皇になることが防がれ、伝統的な継承の仕方を維持する一助となりました。

八幡神は後に宇佐神宮の本殿に戻されましたが、大尾山にあるこの神社は、かつて八幡神が現れてその意向を語ったと信じられている場所として、今でも神聖な場所です。現在の大尾神社の建物は 1937 年に建設され、2020 年に修復されました。大尾山の近くにある護皇神社は、その皇室への忠誠を称え、和気清麻呂を祀っています。